

出張報告書

令和 元年 11月 07日

市政クラブ

会長 金澤 浩幸 様

出張者氏名 吉田 崇仁



下記のとおり出張したので報告します。

記

1 出張期間	令和 元年 10月 29日 ~ 令和 元年 10月 31日 (3日間)
2 用 務 地	高知県 高知市
3 出張概要	第14回 全国市議会議長会 研究フォーラム in 高知 に参加
4 所 見	別紙のとおり
備 考	

全国市議会議長研究フォーラム報告書

去る10月30日31日に高知県ちばさんセンターにおいて
全国市議会議長会研究フォーラムが開催された。

最初に中島岳氏（東京工業大学リベラルアーツ教育院教授）

による基調講演が行われる。講演の内容は現代政治のマトリクスーリベラル
保守の可能性について講演される。

政治のマトリクスーとは何かリスクの社会化とリスクの個人化に対し保守系は
60点であり自民党の50年に対して希望の党がなぜ失敗したのか論説された。
又、ラディカルデモクラシーとポピュリズムの設定の重要性について2017
年

の立憲民主党フィバーの理由と2019年のれいわ新選組フィバーは良くも悪
くも共通している点があると話される。又、リベラルの逆説として異なる他者
と如何に共生するのかという問いかけでもあり個人の価値の領域には土足で踏
み込まないと云う主張のもとで大切な事を守る為には変化して行く事も必要で
あると論説された

その後パネルディスカッションが開催されコーディネーターとして坪井ゆづる氏（朝日新聞論説委員）が議会活性化のための船中八策を話される。議会はスポットライトを浴びる機会は少なくとも予算や事業の採否などの最終決定権を握っているのは議会であり地域の将来を左右する重大な使命を担っている。

当然そのぶん責任は重いすべての議決にあたって公明正大で説明可能な判断を求められる。

分権一括法の施工からまもなく20年になるが議会基本条例を始め幾多の成果を残してきた議会もあるがしかし全国あまねく議会改革が進み現状で十分だと言えるのかと問われればどんな答えが返ってくるのだろうか

全議員が改革の成果を胸を張って語れるのでしょうかとも話される。

全国津々浦々で選挙のたびに過去最低の投票率が相次いでいるのも議会に向けられた冷やかな視線の表れにも見えるだからこそこうした世論を踏まえつつこのフォーラムを活力に繋がる質の高い議会を実現してゆくため具体策を考える機会にしたいと考えると話された。

又、パネリストの高部正男氏（市町村職員中央研修所学長）は市議会について現状認識と題して投票率の低下や無投票当選の増加、議員のなり手不足や女性若者の議員の少なさ地域市民の議会の無関心や政務活動費の不正使用等や議員の不祥事など問題点を話される又、市町村合併の進展により議会議員の減少に伴い議会活動が疎かになりつつある今後早急に検討すべき課題としての

- ① 地方選挙統一、地方自治の日
- ② 兼職兼業規制の弾力化
- ③ 労働法制の見直し、休暇、勤務時間、休職、等
- ④ 議員の厚生年金への加入など必要ではないかと論説された。

又、横田響子氏（(株)コラボラ代表取締役、お茶の水女子大学額准教授）は議会改革の具体的なアイデアとして1、中長期視点で街の目指す方向を議論すべきであるが、人口減を前提にされるべきだと言われる

又、パネラーの古川康造し（高松丸亀商店街振興組合理事長）は高松丸亀町まちづくり戦略として丸亀商店街の再開発に振れる。様々な都市機能を持つ商店街にすると人が多く集まるようになりました。

特に総合メディカルセンターを入居されることが市民に好評でもあり100年を見据えた再開発は人と人とのコミュニティーが必要であると話しておりました。

2日目の全体討論では、コーディネーターの坪井氏が議会は首長提案に対してただ漠然と賛成するのではなく首長と対峙し市民の代表として声を届ける事が必要であると話しておりました。

今回の研究フォーラムは今後議員活動を続ける為に大いに参考になった次第であります。

函館市議会議員 吉田崇仁

出張報告書

令和 元年 11月 07日

市政クラブ

会長 金澤 浩幸 様

出張者氏名 遠山 俊一



下記のとおり出張したので報告します。

記

1 出張期間	令和 元年 10月 29日 ~ 令和 元年 10月 31日 (3日間)
2 用務地	高知県 高知市
3 出張概要	第14回 全国市議会議長会 研究フォーラム in 高知 に参加
4 所見	別紙のとおり
備考	

全国市議会議長会研究フォーラム In 高知市という事で、坂本龍馬が長崎から大阪に向けた船中で藩士後藤象二郎に示した八箇条からなる新しい国家体制の構想「船中八策」にちなんで「議会活性化のための船中八策」がテーマとなった。

それぞれの都市にはそれぞれの歴史、文化、風土、成り立ちの違いがあり、これだけの都市が一堂に会して共通の対策が図れるのかと思いつつ、この根底にある現代の政治のありように興味を持ち、こちらのテーマについてを報告させていただきます。

講師、中島岳志教授の講演は、表題の通りであるが、政治には大きな分類の仕方があるとして、「お金の問題」と「価値観の問題」を座標軸を示し、縦の軸に「お金の問題」を横の軸に「価値観の問題」を示しました。縦軸の上の方には、突然降りかかる不幸な出来事に対して社会全体で対応をする「リスクの社会化」。下の方には個人で対応をする「リスクの個人化」と分類をしました。

「リスクの社会化」とは税金は高いがサービスが充実していてセーフティーネットが整った大きな政府。「リスクの個人化」とは税金は安いが公共のサービスが少なく、個人が責任を負う小さな政府と分類をしています。

一方、「価値観の問題」を示した横の軸には、左に「リベラル」。右に「パターナル」を示しています。時間を割いたのは「リベラル」という考え方でした。ヨーロッパで起きた 30 年戦争は「カトリック」と「プロテスタント」の宗教戦争であり、長い間戦っても決着がつかない、結論の出ない戦いであった。そこでヨーロッパでは互いに思想が異なっても相手に寛容になることを確認。「あなたの思想の自由は認めるから私の価値観に介入しないように」と。それが自由という概念となり、リベラルとは寛容とか自由主義と解されている。一方右に示した「パターナル」とは日本語で「父権的」と訳され、かつて日本では重要な決定事項は父親が行っていた。強い力を持つ人間が価値のあり方を決定していく。「リベラル」の対極にあるのは保守ではなく、この「パターナル」だと説明しています。

この様に縦軸と横軸によって 4 つの領域が現れました。

現在の安倍政権について、幼稚園、保育園を含む教育の無償化などを進めていることで大きな政府ではないのかといわれているが、国際的な比較のためOECDの平均値と比較をし、国民の租税負担率、国民千人あたりの公務員数、GDPに占める国家歳出のいずれにおいても小さな政府であり、リスクの個人化が進んでいる事は自公政権の特徴ともいえるとしている。安倍政権は「リスクの個人化」と「パターナル」に囲まれたエリアにあるといえます。

それでは過去の自民党はどのような道を歩んだのか。4～50年前の日本は田中角栄の時代であって日本列島改造論などで公共事業が拡大し経済が成長している時代であった。しかし、一方で自民党内には保守の危機が意識されていた。高度成長の波に乗り都会に人口が集中したことで、自民党の票田である地方の人口は減り続けた。都会に出た労働者は政治的には社会党に流れ、革新都政が生まれるまでになった。これに危機感を持った自民党は、この労働者のための福祉政策に力を入れ、福祉元年が謳われた。政治的には「リスクの社会化」と「パターナル」に囲まれ範囲にあった。

その後、田中角栄の盟友であり互いに尊敬をし補完し合いながら政権についた大平正芳は田園都市構想など「リスクの社会化」と「リベラル」の領域に移っていき、現代においてこの大平氏の政治姿勢や政策が評価されていると言えます。田中氏、大平氏のこの二つの流れが保守本流と言われている。

団塊ジュニアの時代になり 人口の動向すなわち出生率の低下は止まらず、このまま田中角栄の路線を継続しては財政破綻を起こすという危機感から、中曽根内閣が国鉄の民営化に踏み切り、その後の小泉内閣の誕生により官から民へ、規制改革、構造改革、マーケット至上主義などにより「リベラル」と「リスクの個人化」のエリアに入っていきます。

一方、野党は2年前希望の党の混乱に巻き込まれる。希望の党がうまくいかなかったのは小池百合子の「排除の論」があったからではなく、希望の党の中核を占めていたのは旧民主党でありその中心は前原氏であった。前原氏の考えは「オールフォーオール」。みんなで支え合いましょうという「リスクの社会化」路線であり、それが民主党の一貫した主張であったはずである。それが現在の安倍政権の政策に近い小池百合子氏とではまとまるはずがないと思っていた。それは与野党が同じ主張になってしまうからである。

国民は政党の目指すものがわからなくなり、選択肢が狭まったことから新たな選択肢を作ってくれという声が枝野氏へと流れが移っていく。立憲民主党はラディカルデモクラシーを掲げフィーバーが巻き起こり、それはもう一度政治を国民の手に取り戻そうという流れであった。「立憲民主党はあなたです」という主張は、直接的に自分の声が政治家を動かしている。自分の声が政治家に届いているという実感があったことが躍進に繋がったものと思われる。

しかし、一年も立たずに支持率が急低下する。それは永田町の論理による有権者不在の、どちらが第一党かという野党の主導権争いによるものであった。ラディカルデモクラシーは熱しやすく冷めやすい傾向にあり有権者は疎外感を感じていった。

その間隙を縫って出てきたのが山本太郎である。立憲民主党が目指したラディカルデモクラシーは有権者を平等に意見を述べ合うパートナーとし、タウンミーティングなどで有権者の声を拾い上げ、それを政治に生かしていくという住民が直接的に政治に参加をしていく、民主主義の基本的な手法でこれを熟議デモクラシーと分類する。

一方、山本太郎が行っているのは闘技デモクラシーであり、政治は対抗軸であるという考えから、「俺だったらこうする」と強い言葉でせまっていくことによって、それに真っ向から挑んでいく姿を見せる。これは政治を人民の側によこせという、一種のポピュリズムとして評価されている。今後野党の中でどのような動きをするのか。熟議デモクラシーと闘技デモクラシーがバランスをとりながら、かつて大平氏が目指した「リスク社会」と「リベラル」に囲まれたエリアに進んでいくのが今後のあるべき野党の姿なのだろうと思う。と結んでいます。

出張報告書

令和 元年 11月 07日

市政クラブ

会長 金澤 浩幸 様

出張者氏名 藤井 辰吉



下記のとおり出張したので報告します。

記

1 出張期間	令和 元年 10月 29日 ~ 令和 元年 10月 31日 (3日間)
2 用 務 地	高知県 高知市
3 出張概要	第14回 全国市議会議長会 研究フォーラム in 高知 に参加
4 所 見	別紙のとおり
備 考	

■第1部 基調講演

テーマ 現代政治のマトリクス ― リベラル保守という可能性

2019年10月30日（水） 講話開始 13：20

会場 高知ちばさんセンター

講師：東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授 中島 岳志（なかじま たけし）氏

この講話のポイントは、現在の政治がどういう大きな流れの中にあるのかという把握、保守とはいったいどういう概念なのかの考察、保守とは永遠の微調整であるというまとめ。

政治の役割は大きく分けると2つ有り、それがお金の使い道を決めることと、もう1つは夫婦別姓やLGBTに代表されるような価値を巡る仕事である。

まずは保守がどのようなものであるかの考察に、ヨーロッパの30年戦争を例に挙げた。キリスト教内部の争いであり、それらは結局のところ決着を見なかった。その教訓が「あなたの考えかたを認めます。そのかわり私の考えも認めてくださいね。」という考え方であり、結果的に寛容から自由というふうにとらえかたが変わっていった。

リベラルは保守の対義語としてとらえられがちだが、むしろ保守はリベラルという概念を重要視してきた。なお、リベラルの反対はパターナル（父権的）である。

その後、田中角栄（第1象限）、大平正芳（第2象限）、小泉純一郎（第3象限）、安倍晋三（第4象限）、前原誠司（第1象限）、小池百合子（第3象限）、公明党（第2象限）を例として挙げ、横のパーシャル連合は可能であるが、斜めに位置する象限との連合は不可能であるということ。しかり、中には例外があって、第4象限である安倍晋三と第2象限である公明党との連合が存在することも話題にあげた。

また、話のネタとして、立憲民主党が設立されたときのラディカルデモクラシーの性質についてと、山本太郎の存在がなぜ際立ったのかを論理的に説明した。

フランス革命が起こっていた時代に、フランス革命を歪なものであると主張していたイギリスの議員の話をした。その話の主旨はすなわち、人間は完全なものではなく、価値観もその時代に応じて変化するものであり、また、多用な考え方が存在するから、政治が行う判断もまたそれに付随したものでなければならないという主旨である。

その話の延長として、共産はリベラルの態度をとれないこと、その例が毛沢東、スターリンであるということを話していた。

自由の名のもとに自由を奪ったのが共産国。自由を尊びリベラルを尊重したのが大平正芳。

リベラルと保守が重要なタッグを組んだときに重要な政治のマトリックスが生まれる。

■第2部 パネルディスカッション

テーマ 議会活性化のための船中八策

2019年10月30日（水） 講話開始 14：40

会場 高知ぢばさんセンター

コーディネーター：朝日新聞論説委員 坪井 ゆづる（つばい ゆづる）氏

パネリスト：市町村職員中央研修所学長 高部 正男（たかべ まさお）氏

株式会社コラボ代表取締役／お茶の水女子大学客員准教授

横田 響子（よこた きょうこ）氏

高松丸亀町商店街振興組合理事長 古川 康造（ふるかわ こうぞう）氏

高知市議会議長 田鍋 剛（たなべ つよし）氏

「 議会の活性化についての意見 」

制度論的なものでいうと投票率の低下、自治への無関心はだいぶ長引く見込みでありそれらを打破するために選挙期日の統一を考えてはどうか、また、選挙区制の議論をやってはどうか。

議員の成り手不足、議員人数中の女性率の低さ これに関連して労働法制の見直し、公民権行使の機会規定 投票率済票、休暇、議員期間の休業などの法制を見直してみてはいかがか。兼業禁止についての議論も高知県の大川村であったと思う。

運営面での課題、この頃政策立案が重要視されているが、その傾向はいかがなものかと思う。法制局が厳し過ぎるなど。庁内の内部規制を強化しろという流れになっている。議選の監査委員はおかなくていいというのもその中の一つだが、議選監査は大事だと思う。

兼職兼業の労働改正によって候補者は増えるのではないか。人口減を前提にしてもらいたい。中長期視点で。ガチンコ会議を多用な人材で実施できるのではないか。

そもそも改革必要なの？議員への監視の目がキツところも、候補者が増えない要因の1つであると思う。議員に対するリスペクトが必要なんじゃないか。

議員が普段何をしているかはわかりづらいものだが、努力している姿もよく見ている。その姿を市民に広報されていない。議員は悪い奴だという印象があるのがよくない。リスペクトも必要。

「 女性議員を増やすとしたら、どうやったらいいのか 」

管理職の次期なり手の場合、リストを増やす、その中に女性では誰？という問い欄を作るとリストにあがりやすい。口説きかたとかもある「いや、わたしなんて・・・」という人に対しては5回くらい口説いてもらいたい。

どういう人が議員になるのかという点でいうと、女性としてはあまり良い見られかたをしない風潮がまだ残っているのではないか。

「 どうやったら議会に関心を持ってもらえるのか 」

議会報告会に市民が来ないのは、話題がつまらないからだと思う。直接住民に関係のある話題であれば行くのではないか。

地方自治に関心を持ってもらえない。国政にも関心を持ってもらえない。議会報告会等には社会教育全般において参加してもらわなくてよさそうないつも来ている人が来ていて、来て欲しい普段来ない人はやはり来ない。議会広報の難しさは、議員同士がライバルであるということである。そのあたりに対する工夫が必要。

以上の小テーマに基づく意見が聞かれた。

議会活性化に関しては、議員候補の成り手不足もからめて、なぜこの業界に新しい人が参入しづらいのか、その根本の部分を変えて意識する意見が多かった。

女性議員の人数割合に関しては、前出の議会活性化の意見と同様に、周囲からの目線の話もでたが、逆に女性に白羽の矢が立ちやすい手法についても語られた。

議会への関心の薄さに関しては、報告会を例にとりながら、話題の選びかたや議員のポジション取りを変化させることで関心を持ってもらいやすい報告会の開催も可能ではないかとの示唆がなされた。

■第3部 意見交換会

交流会形式で開催され、個々に会話を通じて意見交換をおこなった。

■第4部 課題討議

テーマ 議会活性化のための船中八策

2019年10月31日（木） 講話開始 09：00

会場 高知ぢばさんセンター

コーディネーター：朝日新聞論説委員 坪井 ゆづる（つばい ゆづる）氏
パネリスト：上越市議会議員 滝沢 一成（たきざわ いっせい）氏
鎌倉市議会議長 久坂 くにえ（くさか くにえ）氏
周南市議会議長 小林 雄二（こばやし ゆうじ）氏

「 議会改革について 」

市議を目指すことを阻害する現状の要因を把握すること。議会の見える化が第一だった。
やる気にさせる心の問題を乗り越えるために、議会との距離を縮める工夫、選挙の困難さ、物理
的要因、取り巻く環境、女性特有の壁を打破するなどの解決を進める必要があった。

出産が会議規則の欠席の自由の項目に入っていなかったが、出産を機にそれが作られた。議会終
了時刻が19:00だったが、託児等の困難状況を訴え、17:00頃には終わるのが通例となった。時代
とのミスマッチ、制度疲労になっている。会議規則はそれぞれの議会では変えられる。

合併にともない、議員報酬を合併都市中一番高いところにそろえようとしたところ、住民から議
会の解散請求がかけられ、住民投票で賛成で、即日解散となった。それを機に議会改革がどんど
ん進んだ。

「 各都市の行政監視機能は 」

すべての事業において、行政側から、財源や、予算と決算の乖離理由、達成度、先の課題などに
ついて事細かに書かれた物の提出を受けることにより監視している。

所管事務調査を積極的におこなっている。500超えの公施設のうち、73が指定管理。3常任委員
会共通の調査シートを指定管理者に提出してもらい評価することとした。

「 住民の声をどう集めて、どう活かしているか 」

課題調整会議を開いて、このように応えますということを周知している。4つの常任委員会が広報
公聴委員会と組んでおこなっている。改革案として、各層との意見交換会もおこなっている。テー
マを決めて意見交換会をおこなうこともしている。議会モニター制度もある。アンケートを送っ
て、回答してもらう。回収率はさほどでもないが、議会に関する不満が多い。また、30人いる議
会モニターにも協力を求めている。

委員会で、陳情者や請願者が直接語ることもできる。

「 議員個人の賛否態度を明示するなどの情報公開については 」

個人名で公開している。公開していない。発言者の自治体により様々。

「 年金に関しては 」

世間的には議員年金の制度が廃止されたことが知られていない。厚生年金には賛成。市長の退職金も無しにしてもいいのではないか。

退職金はむしろあったほうがいいとも思う。

「 どうやったらより良い議会になるのかのまとめ 」

行政監視機能を強化

次世代を見据えた議論が必要。20、30年あとの視点（未来カルテの活用）

データをきっちり踏まえた議論

多様性の確保の工夫

96条1項、2項を駆使して議会の側からどんどん攻める

労働法性の見直し。兼業兼職の緩和

情報公開の徹底

合意形成（議員のあいだでの徹底的な討議が必要）

以上の八索

討議の中で、上記までの意見が発された。最後にまとめとして挙げられた項目をもって、この研究フォーラムでの一様の取りまとめ意見となった。項目を挙げる前提となった各項目の意見を参考に当市の議会にも当てはめて考えていきたい。

■第5部（視察）出席せず

出張報告書

令和 元年 11月 07日

市政クラブ

会長 金澤 浩幸 様

出張者氏名 山口 勝彦



下記のとおり出張したので報告します。

記

1 出張期間	令和 元年 10月 29日 ~ 令和 元年 10月 31日 (3日間)
2 用務地	高知県 高知市
3 出張概要	第14回 全国市議会議長会 研究フォーラム in 高知 に参加
4 所見	別紙のとおり
備考	

第14回全国市議会議長会研究フォーラム報告書

開催日： 令和元年 10 月 30 日（水）・31 日（木）

受付 12:00 開場 13:00～ 開場 9:00～

会 場： 高知ちばさんセンター 高知県高知市布師田 3992-2

大会テーマ「議会活性化のための」船中八策

この度、フォーラム参加で学んだ事をご報告申し上げます。

10 月 29 日 AM8:10 函館空港ロビー集合し、参加議員 8 名と合流し、AM8:55 函館より羽田経由にて 12:55 高知龍馬空港着、14:30 宿泊ホテル着、15:30 ホテルより、会派 5 名で市内徒歩にて散策、途中ひろめ市場で当地の習慣や人間性、食の文化を知る事に着目し、地元の方、観光客や、お店の方々と親しくなり、夕食を市場で済ませる事に成り 18:30 頃、宿泊ホテルに徒歩にて戻りました。

当日は朝も早くからの出発でしたので、皆さん披露気味でした。

翌日は、12:00 よりフォーラム参加の為、AM8:00 ホテルを出発し坂本龍馬生誕の地と、記念館など見学して、時間的に観光名所は見学できませんでした。

議長と途中合流し昼食を済ませ会場で 10 名合流しフォーラム参加致しました。

第一部【基調講演】 PM13:00 より関係者の歓迎の挨拶後、

中島岳志氏(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)より、「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」と題とし、政治のマトリクス、ラディカルデモクラシーとポピュリズム、リベラルの逆説、保守とは何か？についての基調講演の内容で有りました。

内容に関しては、参加議員の皆さんの受け止めの違いを尊重し、あえて内容については、申し述べません。自分としては参考になったと思っております。

休憩後、14:40 より

第二部【パネルディスカッション】「議会活性化の為の船中八策」コーディネーターの坪井ゆづる氏「朝日新聞論説委員」の進行で、パネリストの 4 名にて、

高部正男氏 [市町村職員中央検収書学長]

横田響子氏 [株式会社コラボラ代表取締役／お茶の水女子大学客員准教授]

古川康造氏 [高松丸亀商店街振興組合理事長]

田鍋 剛氏 [高知市議会議長]

坪井ゆづる氏の厳しい一声から、議会は地方政治、自治の主役である。から始まり、予算や事業の採否などの最終決定権を握っているのは議会であり、地域の将来を左右する重大な使命を担っている。

2,000 年の地方分権からまもなく 20 年になるが全国各地で議会改革が繰り返し

叫ばれたが、現状ですでに十分だと言えるのか、全議員が胸を張って改革の成果を語れるのだろうか。世論を踏まえつつ、このフォーラムを、活力があり、質の高い議会を実現してゆくための具体策を考える機会に名付けて「議会活性化のため船中八策」

- ★行政監視機能をどうやって高め、成果をあげてゆくか。
- ★人口減少、外国人の増加、災害対応などなど、地域の将来を見すえた政策論議をすすめるために必要な視点とは何か。
- ★候補者男女均等法のもとで、「老老男男」の実態をどう変えられるのか。
- ★規模の小さい議会で深刻化する「なり手不足問題」にどう対処するか。
- ★住民の関心を高めるには、何をすべきか。

※これらの問題は、個人的には当然の事、私たちの会派でも将来を見据え、市民や市政の為に、議会の為にも議論し勉強したいと強く感じました。

【参考資料】北海道栗山町の議会基本条例、第 6 条が例に挙げられておりました。内容につきましては、第 6 条 町長は、議会に計画、政策、施策、事業等（以下「政策等」という。）を提案するときは、政策等の水準をたかめるため、次に掲げる政策等の決定過程を説明するよう努めなければならない。

- (1)政策決定の発生源
- (2)検討した他の政策等の内容
- (3)他の自治体の類似する政策との比較検討
- (4)総合計画における根拠又は位置づけ
- (5)関係ある法令及び条例等
- (6)政策等の実施に係る財源措置
- (7)将来にわたる政策等のコスト計算

議会は、前項の政策等の提案を審議するにあたっては、それらの政策等の水準を高める観点から、立案、執行における論点、争点を明らかにするとともに、執行後における政策評価に資する審議に努めるものとする。

など、地方議会の 3 つの悩みとして、「なり手不足、女性議員ゼロ、住民との接点なお不足」などを上げ、厳しい指摘を受け、

次にパネリストの高部正男氏より、以下について、

1. 市議会についての現状認識
2. 自治体議会をめぐる状況変化
3. 議会基本条例
4. 今後の自治体議会の有り方「多様な人材の市議会への参画促進に関する決議」
「中長期的な制度課題」「早急に検討すべき事項」

次に、横田響子氏より

■そもそも議会に必要なことは、

★20年後の住民は幸ですか？

★やりっぱなしになってませんか？

数字（EBPM）とともにPDCAは？

★若手、女性の参加は？

巻き込んで街を活性化する策は？

■議会改革の具体的なアイデア

★中長期視点で街の目指す方向を議論..... 人口減を前提として

★ガチンコ会議を多様な人材で実施

★経験の機会提供..... 中長期戦略を検討する機会・住民参加の事業仕分け
横田さんがこれまでの未来を考える会議でたびたび出くわした印象的な言葉として、

- ・永遠のトライ&エラー促進
- ・透明化・オープン化
- ・自前主義の脱出
- ・内外問わず「組むことで課題解決」
- ・協働&協創(コラボレーション)

次に、古川康造氏より高松丸亀町まちづくり戦略と題して、住民をベースにしたデベロッパーによるメインストリート再生計画が進み、変身する商店街を目指し、住宅整備とテナントミックスは、車の両輪とし、土地の所有と利用を分離した市中心部の土地の有効活用し、テナントミックスの選定基準は生活目線で、「歳とれば丸亀町に住みたいよね!」と言われるような街を創り、生活者を取り返すには、快適に生活の出来る街でなければならない、ライフラインの再整備、車に依存しないで歩いて事足る街、新しい中心市街地再生に向け、日々精力的に取り組んでいる。

★向こう 100 年を見据えて、

- ・土地の所有と利用の分離
- ・再開発成功の大前提はコミュニティーの現存
- ・後に続く旅人(子や孫)の為に本気の覚悟

※具体的に史料の中に掲載されておりますが、可能に成る施策であるエリアマネジメントで、土地の問題を解決し、土地の所有権と使用权の分離を理解させ、自分たちのまちを自分たちで自らリスクを負い自治権をもって運営していこうという、新しい自治組織の形成であり、業種の再編成で、イベント、商店街外部の各団体、組織との連携、住宅整備、安心安全のまち創りなど、これから

の街創りとして、誰もが経験した事の無い大地穀変動が、自分達の足元で起きている事を強く語って実施している。

少子高齢化社会と言う、人口減少、高齢化社会に対応するまちづくりを実現させ、自分達は、後に続く子や孫に、何を残してやれるのか、だから地域の人々は、地域に対して責任を負う本気の覚悟が必要なのであると力強く語っておいしました。

素晴らしい街づくりに取り組んでる姿勢にとっても感動させられました。

是非、参考に出来ればと強く思いました。

土地の所有と利用の権利を分離した市中心部の土地の有効活用プランに対し、地権者は、個々の権利を主張するより全体の利益をシェアした方が得ということに気づかせた事が一番の成果だと思います。

事業の完成を楽しみにしております。

機会があれば、当地でのセミナー開催で、もう一度聞きたいと思いました。

次に、田鍋 剛氏より高知市議会の概要と題して、関ヶ原の戦いの後、土佐に入国した山内一豊が慶弔年間に大高山に高知城を築き、歴代の藩主が城下町を形成して以来、土佐の政治、経済、文化の中心として発展、幕末には坂本龍馬、武市瑞山ら勤王の志士を輩出して明治維新の礎を築き、また、自由民権運動発祥の地として、その思想を全国に発信しました。

高知は、何ととってもよさこい祭りでも代表され、総人口 328,283 人、世帯数は、163,182 世帯(平成 31 年 4 月 1 日現在)

■高知市議会議員選挙の記録、

項 目	平成 31 年 4 月現在
議 員 定 数	34 人
立 候 補 者	43 人
(女性)	(6 人)
立候補者平均年齢	58.5 歳
(最高・最低)	(33-72 歳)
選挙人名簿登録者数	278,529 人
投 票 率	36.55%
当 選 者 内 訳	27・0・7 人
現職・元職・新人・(女性)	(5・0・0 人)

■議会構成(委員会)について

常任委員会	定数	特別委員会	定数
総務 委員会	9 人	行財政改革調査特別委員会	11 人
建設環境委員会	8 人	南海地震等災害対策調査特別委員会	12 人

厚生 委員会 8人 まちづくり調査特別委員会 11人
経済文教委員会 9人
予算決算委員会 34人

※議長は常任委員会に所属しない為、経済文教は8人、予算決算は33人で運営

主な議会改革の取り組みの報告後、初日フォーラム 16:50 終了、会場移動し、

第三部【ザクラウンパレス新阪急高知】次期開催地挨拶後、意見交換会 19:00
意見交換会終了、宿泊先へと議長以外徒歩で散策しながら、戻りました。爆睡
2日目は、AM5:00 起床

第4部【課題討議】AM9:00 より

■コーディネーター

坪井ゆづる 氏 朝日新聞論説委員

■事例報告者

滝沢 一成 氏 上越市議会議員

久坂くにえ 氏 鎌倉市議会議員

小林 雄二 氏 周南市議会議員

コーディネーターの坪井ゆづる氏より討議進行、

■データーで見る地方議員

【女性議員】

議会選挙で男女の候補者数をできる限り「均等」にするよう求める法律が昨年
施行されたのを受け、結果は、全体の約2割が「女性ゼロ」だった。

市議会に限ってみれば、36議会(4.4%)とかなり少ない。まだわずかながらも
「女性ゼロ議会」が存在する。

*女性立候補者・・・ネガティブな環境が目立つ実態に反響も大きい

- ・家族・地域の壁
- ・前に出る妻、嫌がる夫
- ・夜、週末も仕事
- ・家事、育児
- ・議会も地域も男性中心
- ・票の力でセクハラ横行

【なり手不足】

問題は、町村議会ほどでないにせよ、一般市議会、特別区でも216議会(27%)が、
課題になっているのが現状、今後の打開策次第で、その地域の将来像も占えるの
では・・・。

【報酬】

この４年間で一般議員の報酬を変更した議会は調査では、400 議会増額、49 議会が減らしたとの結果、政令都市を除く市議会と特別区では、166 議会が増額していた。住民の理解を得て、議員専業で暮らして行ける報酬を受け取れるようにする事が重要だと・・・。

【議会基本条例】

議会基本条例を「制定している」と答えた市議会は、519 議会(63.7%)

町村議会などを含めた全議会では、48.3%大きく上回った。

検討中で、近く制定予定と言う市議会も 17 議会(2%)あり、基本条例の標準装備化が進む実態は浮かんでいると語っていた。

【3 ない議会】

下記の 3 項目すべてに当てはまる議会を「3 ない議会」と名付けている。

1. 組長提案議案をひとつも、否決も修正もしていない。
2. 議員提案の政策条例をひとつも制定していない。
3. 議員個人の賛否をこうかいしていない。

この 3 項目を重視するのは、あるべき議会像を確実に実践してゆくには、3 問ともに「NO」と答える必要がある、つまり「3 ある議会」になるべきだと考えるからだと言っておりました。

予算や事業の採否を、住民に見えない形の事前協議で決めてゆくことで、議会への信頼、理解が果たして得られるのか、生来の人口減に伴う予算規模の縮小なども見据えた判断をする場合はなぜ、この予算をカットするのか、その理由を明示しなければ、なかなか住民は納得できないに違いない。

公開されている議場や委員会審議の場で、事業の内容や優先順位を論じあい、議案を修正、否決する事で、議会の意思を可視化して行く事が必要と考えている。坪井ゆづる氏の、「データーで見る地方議会」の解説が終了し、引き続き、

事例報告を最初に、上越市議会議員の滝沢一成氏の議会の取り組み報告から、

■市議を目指しやすい環境整備への提言

(1)H28 年 4 月の市議会議員選挙

- ・定数 32 人 立候補者数 34 人 (女性出馬 1 人)
- ・地元での出馬見込み者が無く、引退を見送った議員も・・・
- ・当選時、40 歳未満の議員 3 人

(2)この現状への危機感から、議長提案で、議長の諮問組織として当検討会を設置。

(3)R 元年、9 月末現在の現況は

- ・女性議員は 0 人
- ・議員平均年齢 63 歳

市民の声を市政に反映させる上で、男女を問わず市民の各年齢層から市議がいるのが望ましいが、残念ながら現状は、子育て世代などの若者や女性の議員はわずかである上、挑戦する動向も伺えない状況にある。その整備に向けて、「市議を目指すことを阻害する」現状の要因など把握し、その改革案を策定すること。まとめとして、議会改革推進こそ、議員を目指す人々を獲得する最大の力として締めており。

※資料の中身では全く理解しがたいが、ネガティブな自己満足の世界であり。基本的に、坪井ゆづる氏の話の中にある「なり手不足」その他事例に関連する事ですが、自身は非情に答えるのは難しいですが、様々な取り組みの中での感想は、議員、議会が「議長の諮問組織を設置」してまで、議員を目指す候補者を発掘する議員の活動を理解してもらったりするミニコンなどより、議員として志す市民が増える議会でもっと市民の為に、自分達が市民の為に何をなすべきかもっと汗を流す仕事が、市民の信頼や理解を得て、初めて市民に市政に興味を持ち参加する若者が（男・女）、出てくるものと思っておりますが、幾世も「子は親の背中を見て育つ」と言う通り、議員の背中（行動・言動・倫理観）を常に見ている市民をわすれずに、議会をもっと活発に（ネガティブから常にポジティブ）な活力のある前向きにと特に感じさせられました。

自身は今まで以上に知識を付け、市民目線でと心掛けて行きたいと改めて強く感じさせられました。選挙で選ばれる者の重責が基本中の基本だと思います。坪井ゆづる氏の資料を参考にお勧めしますよ。

次の報告事例者は、鎌倉市議会議員 久坂くにえ氏より

■女性議員の現状の視点

・顕在化した課題

出産が欠席理由として規定されていない。

機関の明記もない

・議会の運営

多様なバックグラウンドを抱える議員の配慮がない

行政職員への影響

■現在の潮流

・女性活躍推進法施行

豊かで活力ある社会の実現

・政治分野における男女共同参画推進法の施行

家庭生活との円滑かつ継続的な料率

■環境整備に向けて

- ・出産に伴う議会の欠席に関する規定について
(取得期間及び運用についての考え方を明示)

- ・子の看護休暇に関する規定の整備
- ・配偶者失算休暇の取得
- ・IPU「ジェンダーに配慮した議会の為の行動計画」に則った、議会における仕事と家庭の両立支援のためのインフラ及び議会文化の整備又は改善

出産議員ネットワークとりまとめ事項より、以上の事例報告者は、周南市議会議員 小林雄二氏より

■周南市議会事例報告

○平成 15 年 4 月 21 日に 2 市 2 町（徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町）の合併により誕生(山口県内の平成の大合併第一号)

○人口約 14 万 3 千人、面積 656.29 km²

○天然の良港(徳山港)と石油コンビナートを中心に発展をつける町

■合併後の議会解散までの歩みと議会改革

○議員定数及び市議会議員一般選挙の問題

○議員報酬問題

○議会解散の経験を生かした合併後の周南市市議会の「議会改革」

- ・市民により開かれた市議会
- ・議会活動への市民参画を促す。
- ・市議会に関心をもってもらう。

○キーワードは、「公開」と「対話」の議会改革

- ・ 30 項もある、新規条例や一部改正など政策など議会改革に合併後は特に活発な取り組みであった。

※特に感じたのは、資料の 27 項の周南市議会大規模災害対応要綱の策定（平成 29 年 2 月 1 日施行）は、当市としても参考活用できるのでは、内容は、（周南市が災害対策本部を設置した場合、議会においても早急かつ、的確な意思決定を行う事で執行部による災害対応を支援する為、議会災害対策会議の設置等を定めた要綱を制定し運用開始した。）

※当市の災害対策本部の組織表には、支援部の議会事務局長の下、支援班議会事務局とだけであり、災害支援をする為の議会災害対策会議など明記していない為、当市も検討してはと思いました。

○行政監視機能の充実

- ・所管事務調査の積極的な活用
- ・所管事務調査による「指定管理者制度に関する調査」の実施
- ・100 条委員会の開催(防災行政無線設置整備工事のトラブル)

*100 条委員会については、内容別途参加資料無い掲載より

平成 23 年 1 月 17 日から 3 月 30 日までの間に敬 16 回の委員会を開催し述べ 10 人にたいして承認喚問を実施、平成 23 年 3 月 30 日には、調査の結果

を踏まえ作成した「100 条委員会調査報告書」が賛成多数で可決されるとともに、「防災行政無線設置整備に関する要望決議」が前回一致で可決された

○各委員会懇談会開催(ミニコン)

- ・ 目的は、市民と議会(議員) が懇談することにより市民の自治意識の高揚を図り、議会においては市民が参画する機会を確保し、市民の声を議会活動にいかす事を目的としている。

○議会提案による政策条例の制定

- ・ 周南市地域医療を守る条例
- ・ 議会の情報公開の取り組み

以上の議会事例を述べて頂き、自分なりに感じた船中八策は、課題満載状態で、沈まない様、下記を心掛け議員活動して行きたいと感じ参加させて頂きました。

★行政監視機能をどうやって高め、成果をあげてゆくか。

★人口減少、外国人の草加、災害対応などなど、地域の将来を見すえた政策論議をすすめるために必要な視点とは何か。

★候補者男女均等法のもとで、「老老男男」の実態をどう変えられるのか。

★規模の小さい議会で深刻化する「なり手不足問題」にどう対処するか。

★住民の関心を高めるには、何をすべきか。

★市長与党ではだめ、議会が力をつける。

★3 ない議会を NO と言える 3 ある議会へと変えられるか。

★会派内の勉強会(各議題テーマごとに)又、より強いコミュニケーション協調ができるか。

AM11:00 閉会式 11:30 市内視察研修と、市政クラブ 5 名は視察研修参加せず、空港へ行き、昼食を取り各自お土産を買いのんびり休憩し、羽田経由で最終便函館着解散、今回参加させて頂き今後の為に、まとまりのない報告書ですが、本当に勉強になりました。有難う御座います。

令和元年 11 月 8 日

函館市議会議員 市政クラブ

山口 勝彦

出張報告書

令和 元年 11月 07日

市政クラブ

会長 金澤 浩幸 様

出張者氏名 中山 治



下記のとおり出張したので報告します。

記

1 出張期間	令和 元年 10月 29日 ~ 令和 元年 10月 31日 (3日間)
2 用務地	高知県 高知市
3 出張概要	第14回 全国市議会議長会 研究フォーラム in 高知 に参加
4 所見	別紙のとおり
備考	

第14回全国市議会議長会 研修フォーラム in 高地北海道市議会議長会

課題：議会活性化のための船中八策

とき：令和元年10月30日(水)から31日(木)

場所：高知ちばさんセンター（高知県高知市布師田3992-2）

主催者：全国市議会議長会会長 大分市議会議長 野尻 哲雄 様

基調講演講師：東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授 中島 岳志 様

パネルディスカッション：コーディネーター 朝日新聞論説委員 坪井 ゆづる氏

パネリスト：市町村職員中央研究所学長 高部 正男氏

：(株) コラボラボ代表取締役 横田 響子氏

：高松丸亀町商店街振興組合理事長 古川 康造氏

：高知市議会議長 田鍋 剛氏

課題討論：コーディネーター 朝日新聞論説委員 坪井 ゆづる氏

：事例報告 鎌倉市議会議長 久坂 くにえ氏

：事例報告 周南市議会議長 小林 雄二氏

基調講演は、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授 中島 岳志氏による「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」。

中島氏は『リベラル保守宣言』（新潮文庫）などの著書であり、専門的な部分が多いが、歴史的背景を踏まえて現状を掘り下げていてとても興味深い講演でした。

政治のマトリクスの縦軸に配分を巡る軸を置き、横軸に価値をめぐる軸を置き講演をされました。縦軸の配分をめぐる軸とは、リスクの社会化とリスクの個人化で対比されるもので、横軸の価値をめぐる軸とは、リベラルとパターナルで対比されるもので説明されていました。様々な社会情勢の変化によりその中の座標は変わるとのことですが、歴史的な出来事からも、政治とは物語を設定することが重要であり、人々の心を動かすには理由が必要だと感じました。保守とリベラルの本来の意味と、現在の意味は変化しているとのことで、カール・マンハイムは「保守と呼ばれる主義の中にも、自然的保守主義と近代的保守主義があり、普遍的な人間の本性としての保守と、ひとつの特殊な歴史的・近代的現象としての保守を区別する」としていることを知り、難しい話しではありましたが、多くの学びをいただく機会と

なりました。

パネルディスカッションは「議会活性化のための船中八策」と題し、コーディネーターを朝日新聞論説委員の坪井ゆづる氏が務め、パネリストは、市町村職員中央研修所学長の高部正男氏、株式会社コラボラボ代表取締役／お茶の水女子大学客員准教授の横田 響子 氏、高松丸亀町商店街振興組合理事長の古川 康造 氏、開催市である、高知市議会議長の田鍋 剛氏の4名が登壇されました。

市町村職員中央研修所学長の高部 正男氏からは、現在の市議会の現状認識や、状況の変化、今後のあり方、中長期的な制度課題や、早急に検討すべき事項などがあげられました。

わかってはいるのだけれどもなかなか進めないのが議会改革であります。だからこそうやって全国から約2200人もの議員が集まってきているのだと思います。

ディスカッションでは、株式会社コラボラボ代表取締役／お茶の水女子大学客員准教授の横田 響子 氏からは、議会改革の具体的なアイデアとして

- 1、中長期視点で町の目指す方向を議論（人口減を前提に）
- 2、ガチンコ会議を多様な人材で実施
- 1、経験の機会提供の3つをあげていました。

1、中長期視点で町の目指す方向を議論では、未来カルテという地域の状況に関する将来推計のデータを作成してくれるサイトの紹介があり、これはとても参考になりました。

2040年の函館市の姿を想定し、ここから何をしなければならないのかを議論することでもできるのではないかと感じました。2、ガチンコ会議を多様な人材で実施では平均年齢を40歳くらいに設定し、女性を半数以上入れ込むことで開かれた活発な議論が行われるということを話されていました。3、経験の機会提供では、土日夜間など参加しやすい時間帯を設定し、中長期戦略を検討する機会や、住民参加の事業仕分け、参考人など、議会との接触機会を増やすことで興味が出るということも参考になりました。

高松丸亀町商店街振興組合理事長の古川 康造 氏からは全国的に有名になった「高松丸亀町まちづくり戦略」について興味深い話をされていました。簡単な説明は住民をベースにしたデベロッパーによるメインストリート再生計画であります。

商店街全体のイメージから各街区にそれぞれ適した業種を入れ込んでおり、ポイントは、住宅整備とテナントミックスは車の両輪だと捉えているところであります。

どちらかだけでは不十分だということですが、これがなかなかできないものであります。基本的な地方の商店街は1階がお店で、2階が住居という点では同じだが、住居としての機能があるのでお店が入れ替わることができない。

その点、丸亀町は、細分化してしまった土地を定期借地により土地の所有と利用を分断し、まちづくり会社が商業床を一体的にマネジメントしているということで、簡単にいうと、土地所有者がバラバラだったものを定期借地により一体的に開発し、1階を商業床、2階部分をコミュニティ施設等、その上の部分を分譲住宅とする構造であります。新しい商店街の形

をめざすその取り組みは多岐にわたり抜かりが無いもので、取り組んでいく中で商店街の役割は連携の「ステージ作り」であるとしており、「向こう100年を見据えて」という古川氏の文の中に再開発成功の大前提はコミュニティの現存とあり、丸亀町の計画を作る際に、まず着手したのは全国の再開発の失敗事例の調査研究だと聞きました。

そこから導き出された法則は、駅前の一等地が衰退すると、行政が再開発に乗り出し、新しいビルを建てて核となるテナントを招致する。それを請け負うのはデベロッパーでビルを竣工し、テナントを誘致した段階で報酬を経て去っていく。

ところが、そもそも再開発を行うのは衰退した場所だからであり、満足な業績があげられずにテナントは数年で撤退してしまうことになり、すると駅前にまた新しい空きビルができ、仕方なく公的な施設などで穴埋めをすることになったり、という悪循環を繰り返すものになるというものであり、だからこそ地元主導でしかまちづくりは成功しないと考え、そこにこだわってきたという話を聞き今後、函館でも参考になる学びでありました。

2日目は昨日と同じく、コーディネーターに坪井氏となり、事例報告者として滝沢一成（上越市議会議員）、久坂くにえ（鎌倉市議会議員）、小林雄二（周南市議会議員）が昨日の課題を基に事例を報告されました。

まずは、坪井氏からデータで見る地方議会として、女性議員のいない議会の存在、女性議員へのセクハラの実態、議員のなり手不足、議員報酬を専業で暮らしていけるようにすることの重要性、議会基本条例の標準化、「3ない議会」（首長提案議案をひとつも、否決も修正もしていない。議員提案の政策条例をひとつも制定していない。議員個人の賛否を公開していない）が挙げられて討議が行われました。

そして、上越市議会からは市議を目指しやすい環境整備への提言が行われたが、32人の議員のうち、40歳未満の議員は3人、女性議員はゼロ、議員平均年齢が63歳という実態が紹介され、「議会は何をやっているのかわからない」という意見に答えるには、議会の見える化が第一だと市民との意見交換会から気づき、各種団体などとのホワイトボードミーティングを実施したことが紹介され、議会改革推進こそ、議員を目指す人々を獲得する最大の力であると報告がありました。

さらに、上越市のインターネットには行政が行う各政策に対しての問題点までもが公開されており、積極的に情報公開をしていると語っていました。

また、議会が何をやっているのかわかるようにするために、議員個人の賛否を公開することについて周南市は行っていないとの回答に、坪井コーディネーターから議員個人の賛否を公開する事は議決権のある議員として必要であり、公開すべきだとの厳しい意見があり、鎌倉市議会からは、久坂議長が議員在職中に出産した数少ない議員の経験から、顕在化した課題として、出産が欠席理由として規定されておらず、期間の明記もないこと。会議の運営に対して多様なバックグラウンドを抱える議員への配慮がないことを指摘し、豊かで活力のある社会を実現するためにも、政治分野における男女共同参画を推進するためにも、出産に伴う議会の欠席に関する規定、子の看護休暇に関する規定、配偶者出産休暇の取得を

整備することが必要だと提案されていました。

そして、女性議員が少ないと価値観が一面的になってしまうと指摘、女性議員に立候補する気になってもらうには、男性とは違う押し方（自ら進んで手を挙げる方は少ないので、最低5回はお願いするなど）が必要だとの意見も出ており、最後に議員報酬にからむ議員年金について必要だとの意見が出されたが、コーディネーターから市の非正規雇用の方も厚生年金に加入できるようにする事が必要で、議員だけが加入できるようにする事に対して反対の意見が出されていました。

今回のフォーラムを通して、議会改革の必要性を再確認させていただきました。

函館市の議会改革の取り組みは他市と比べても遜色はなく、さらに議会改革を推進して市民からの関心を高め、市民への情報公開を進めていきたいと感じています。

そして、函館市が発展するためにも、函館市でも若い議員や女性議員のなり手を増やし、多様性を高めることが必要だと感じていますし、今後もこれらについて学んでいき函館市の発展のための方向性を探していきたいと思っております。

市政クラブ

中山 治